

令和 5 年度 農林水産部 組織目標と成果

総合計画 の区分	挑 戦	なりわいづくり											
	最優先課題	持続可能な農林水産業を展開する											
項 目		対馬しいたけ振興事業											
取組の内容		対馬しいたけの生産農家としては、少雨や寒波など気象による不作や生産者の高齢化、担い手不足が課題となっていることから、しいたけ種駒補助事業を継続しつつ、作業の効率化を目的とした研修会の開催や担い手不足解消のための新規参入者の確保に向けた取組を行います。											
指標（数値目標）		○しいたけ生産推進 種駒補助 700万個 ○研修会等 2回											
SDGs指標		  			達成時期			令和6年3月					
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
しいたけ種駒補助													
研修会等													

課名等	農林しいたけ課	全体	26
		個別	07-01

指標 に 対 す る 実 績	【種駒補助】 補助対象種駒数 217.9万個(達成率：31%) 対象経費 3,910,000円(予算執行率：43%) 【研修会】 令和5年9月15日 しいたけ生産部会 上対馬支部支部会 【PR・販促イベント】 令和5年11月21日～22日 「対馬原木しいたけフェア」開催（福岡市）	
	・大規模生産者がしいたけ経営からの撤退や隔年での植菌等により、種駒購入数の減と併せて、原木本数も見込より減となった。 ・「対馬原木しいたけフェア」を開催することができ、目標額を上回る売上や来店された業者との商談も実施し、取引にも繋がった。	
評価 価		
	評価記号	△
今後の展開	価格の低迷など、しいたけ経営は厳しい状況が続いており、乾しいたけ品評会の開催も困難となりつつあることから、島内生産量の維持のため、種駒補助の条件緩和や、原木補助の導入により生産意欲の向上と生産量を維持し、併せて新規参入者、高齢生産者への支援を継続して行います。	

令和 5 年度 農林水産部 組織目標と成果

総合計画 の区分	挑 戦	なりわいづくり											
	最優先課題	地域経済の循環の仕組みを確立する											
項 目		学校給食地産地消推進											
取組の内容		学校給食において、対馬の特産品である原木栽培しいたけや対馬あか牛をはじめ、農林水産物やジビエ、その加工品を購入するにあたっての補助金を交付します。											
指標（数値目標）		第3次対馬市食育・地産地消推進計画（R4～R8）において定めたとおり、学校給食における対馬産の農林水産物を使用する割合（金額ベース）を15.0％以上に維持します。											
SDGs指標		 						達成時期		令和9年3月			
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校給食における地産地消推進													
意見交換会													

課名等	農林しいたけ課	全体	27
		個別	07-02

指標に対する実績	【使用割合】 実績：18.5% (令和5年度の対馬産食材購入費/食材購入費)	
評価価	各給食調理場で対馬産食材が積極的に使用され、指標を上回ることができた。 【補助】島内6調理場：13,000千円（執行率：100%） 【取扱品目】 購入費に対し補助率3/4の食材 (対馬産あか牛,クロマグロ,アナゴ,ジビエ) 購入費に対し補助率1/2の食材 (しいたけ,アスパラ,米,その他対馬産農林水産物)	
	評価記号	○
今後の展開	第3次対馬市食育・地産地消推進計画において定めた「学校給食において、対馬産の農林水産物を使用する割合(金額ベース)」を維持します。 ・令和7年3月：15.0% ・令和9年3月：15.0%	

令和 5 年度 農林水産部 組織目標と成果

総合計画 の区分	挑 戦	ふるさとづくり											
	最優先課題	豊かな自然環境を取り戻す											
項 目		生物多様性の保全											
取組の内容		・シカによる生態系被害対策（捕獲によるシカ個体数管理） ・イノシシ、シカー斉捕獲 ・生物多様性の損失要因対策（ツマアカスズメバチ駆除） ・希少種（ツシマウラボシシジミ、ハナナズナ等）の保全活動											
指標（数値目標）		①鳥獣被害防止計画捕獲頭数											

課名等	自然共生課	全体	28
		個別	07-03

指標 に 対 す る 実 績	①鳥獣被害防止計画捕獲頭数 ツシマジカ 8,704頭 ②一斉捕獲目標頭数 123頭 ③市民参加型ツマアカスズメバチ捕獲罫設置 1,407か所 ④ツシマウラボシシジミ保護区設置 1か所 ⑤希少植物の保護区維持・管理 7か所	
	ツシマジカが8,704頭と目標の87%に止まった。野生鳥獣の生態は不明の点が多く、正確な評価ができないが、賢い個体が増加し捕獲が困難になったと推測している。その他の指標については数値目標に達しており良好といえる。	
評価	評価記号 ○	
	今後の展開 ツシマジカを適切な生息頭数に管理することは、林業者をはじめとする一次産業従事者の悲願であり、環境への悪影響も甚大である。次年度も従来の捕獲手法を継続しつつ新たな捕獲方法を模索し、有効なものは捕獲者に還元していきたい。	

令和 5 年度 農林水産部 組織目標と成果

総合計画 の区分	挑 戦	なりわいづくり												
	最優先課題	持続可能な農林水産業を展開する												
項 目		水産業者や漁村への支援												
取組の内容		漁業者の減少・高齢化、若年層の島外流出などにより、島の基幹産業である水産業は徐々に生産量が減少するとともに、後継者不足が深刻化しています。 漁村の賑わいを取り戻すために、地域漁業者、行政、漁協等が一体となって新規漁業者の育成・確保に向けた支援を行います。												
指標（数値目標）		CATV（出演放送、文字放送）、広報、公式ホームページを活用した新規漁業研修生募集の周知広報を行い、併せて生活費を支給することで、新規就業者数を増やします。また、新規漁業研修制度を広く周知するため、年間を通して公式ホームページに掲載します。 新規漁業研修生の確保：8名												
SDGs指標									達成時期			令和6年3月		
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
漁業研修生の募集														
面接試験														
採用決定														
新規漁業研修生へ生活費を支給														
新規漁業研修制度を公式ホームページへ掲載														

課名等	水産課	全体	29
		個別	07-04

指標に対する実績	令和5年4月～5月にかけて、C A T V（出演放送、文字放送）、広報、公式ホームページを活用した周知広報を行い、新規就業生を11名（島外5名）確保しました。	
評価	目標値を達成し、島外から新規就業者が増加したことで漁業者若年層の増加にもつながり、管内漁協の活性化と既組会員にも刺激を与え、相乗効果をもたらしています。	
今後の展開	評価記号	◎
	積極的に周知広報を実施し、多くの新規漁業研修生を確保します。	

令和 5 年度

農林水産部

組織目標と成果

総合計画 の区分	挑 戦	ふるさとづくり											
	最優先課題	豊かな自然環境を取り戻す											
項 目		磯焼け対策の実施											
取組の内容		植食性動物による海藻類の食害が顕在化し、藻場が衰退しているため 食害生物の駆除促進と有用資源としての活用を図ります。 ①漁業者や活動組織間の連携・情報共有による食害生物の駆除促進 ②島内定置網業者、漁協、対馬市水産加工連絡協議会等との連携による 食害生物の利活用											
指標（数値目標）		①漁業者や活動組織間での意見交換会及び優良事例発表会の開催 ⇒年1回以上 ②定置網に入網した食害魚の島内水産加工業者への流通 ⇒30 t											
SDGs指標		 						達成時期		令和6年3月			
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
意見交換会・優良事例発表会													
漁業集落・活動組織による食害生物駆除、岩盤清掃、海藻種苗投入													
食害魚の定置網による漁獲													
冷凍保存された食害魚の加工・販売													

課名等	水産課	全体	30
		個別	07-05

指標 に 対 す る 実 績	①漁業者や活動組織間での意見交換会及び優良事例発表会の開催 ⇒漁業者や活動組織との意見交換の場として、藻場再生作業部会を開催しました。（年1回） ②定置網に入網した食害魚の島内水産加工業者への流通 ⇒28.2t	
	①藻場再生作業部会の開催のほか、磯焼け対策全国協議会への参加、他の市町との磯焼け対策に係る意見交換などで得られた有用な情報については、活動組織等へ共有し、食害生物の駆除促進につながりました。 ②目標はわずかに下回ったが食害魚を島内水産加工業者に流通させることができ、新商品・レシピの開発や販路開拓、学校給食への提供の拡大など食害生物の利活用につながりました。	
評価 価	評価記号 ○	
	今後の展開 ①引き続き、活動組織等による食害生物駆除などの活動を推進するとともに、多数の漁業者等が参加できる意見交換の場を設けることができるよう関係各所との調整を行います。 ②食害魚の島内流通の仕組みが自走できるように引き続き関係各所と連携し取り組みます。	

【評価記号】◎（目標を上回る実績）、○（目標どおりの実績）、△（目標を下回る実績）、×（目標を著しく下回る実績）、－（評価不能）